

刊夕 警城時報

行發日十
編輯兼發行 岡田弘成
印刷所 警城時報社
發行所 警城時報社
一部金貳圓 一月金貳拾圓
廣告料 一行十四字詰五十錢
日刊(日曜祝祭日翌日休刊)

二千六百年の紀元節を迎へ 平市の建國行進

皇紀二千六百年の輝やく紀元節を迎へる平市では午前十時半第一校庭で盛大な紀念式典を挙げるが、終了後市内各團體代表は午前十一時縣社子鏡倉神社敷野八幡神社に参拝し皇威宣揚祈願をなす直ちに市民参加の建國大行進に移る。先導に青年團第一校、第三校のブラスバンド、続いて各團體、各生徒児童等、數千名堂々の行進を行ふ筈であつて、紀念通帳を交付する。

皇紀二千六百年の輝やく紀元節を迎へる平市では午前十時半第一校庭で盛大な紀念式典を挙げるが、終了後市内各團體代表は午前十一時縣社子鏡倉神社敷野八幡神社に参拝し皇威宣揚祈願をなす直ちに市民参加の建國大行進に移る。先導に青年團第一校、第三校のブラスバンド、続いて各團體、各生徒児童等、數千名堂々の行進を行ふ筈であつて、紀念通帳を交付する。

節婦として表彰される 草野の渡邊フクさん

紀元節を前にして草野村泉崎字岸渡邊フクさんが節婦として縣から表彰される事になり十日午前十時出陣した。フクさんは三十七年前二十八歳の時夫一人が財産を費ひ果した上長い間病床について死した後に九歳のトクさんと二歳の義一さんと三人で残り途方に落れたが、男も及ばぬやうな思い決意の下に奮起し今日まで働らき続けて家政を担ひ田舎も一町余を得るに至つた人で、女婦義善さんは平野に、長男義一さんは朝鮮巡査をつとめてゐる。フクさんは節婦に、夫に死別した時はどうしや片倉製菓製菓会社では十三日午

紀元節を前にして草野村泉崎字岸渡邊フクさんが節婦として縣から表彰される事になり十日午前十時出陣した。フクさんは三十七年前二十八歳の時夫一人が財産を費ひ果した上長い間病床について死した後に九歳のトクさんと二歳の義一さんと三人で残り途方に落れたが、男も及ばぬやうな思い決意の下に奮起し今日まで働らき続けて家政を担ひ田舎も一町余を得るに至つた人で、女婦義善さんは平野に、長男義一さんは朝鮮巡査をつとめてゐる。フクさんは節婦に、夫に死別した時はどうしや片倉製菓製菓会社では十三日午

人員七百四十四名である。
町村長會で
三千六百圓
石城町村長會では皇紀二千六百年紀念として一戸十錢宛を集め、原野神社警務費に献納する事になり取纏め中等であるが募集金額三千六百圓の豫定である。

勇士の家庭を
カメラに収む
第二校の催はし
平第二校児童會後奉公會では十一日紀元節當日紀念式典を舉行するが、勳績賞、皆勤賞、した上建國行進に参加後勇士の優良賞、精勤賞、特別賞、社長家庭をカメラにおさめて戦線將賞、重役賞、平商工會賞等受賞兵に送る。

旭五の恩賞
紀元節を前に行賞
晴れの紀元節を前に湯本町出身岡田部隊軍醫少佐故矢吹文彌氏が旭五の恩賞に浴した。矢吹少佐は昭和〇〇年大尉で應召、北平市愛馬訓練は十一日午前八時支から中支に渡り、大別山、漢半八橋小路を出發舊城跡から上口戦に活躍し病を得て應召と同平窪まで送乘會を催す。矢吹少佐は湯本町水野谷生れ陸軍委託生として新潟醫大を卒業後十年間軍隊生活を營んだ後湯本町吹矢に開業してゐた人で、家庭にはあつ子夫人(四〇)と一人娘の馨女(二年生)に招き謝恩座談會を催した。

愛馬訓練會
平市の
山田軍曹戦傷
平市二丁目三七七出身立花部隊山田均軍曹は去月中旬〇〇の戦闘で右胸部貫通銃傷をうけたが奇蹟的に命拾ひし目下〇〇病院で加療中だが、未だ未だ支那の彈丸には負けぬ元氣ですとの程父忠太郎(七〇)さんへ便を寄せた、家には父と母乙子(六七)さん、外弟妹六人がゐる。同君は滿洲事變にも出征勲八等を拜受した。

上田中尉の
謝恩座談會
石城郡内歸還勇士は十日午後二時から上田耕作軍醫中尉を谷口榮佐(十六)さんがある

被保險者
表彰式
紀元節の佳辰を期して表彰する本縣健康保險課の郡下優良被保險者は左の通り
十ヶ年 赤井品川白煉瓦赤井鑛業所小野好信▲同日本鑛業赤井工場相原かね▲同好問小藏智爾○士の合同市葬を今月二日十八日頃執行する

厚生資金寄託
平市葬
平市町三六金子益(一一)君は小遺ひを節約した一圓を傷づいた兵隊さんへと九日厚生資金として寄託した

節元紀年百六千二祝奉

磐城炭礦株式會社礦業所	入山探炭株式會社坑務所	古河石炭鑛業株式會社	貴族院議員 諸橋久太郎	石城郡好間村 小田吉治	平市組合銀行	平製氷株式會社	平藝妓屋組合	大日本電力株式會社平事務所	福島無盡金庫	平運輸株式會社	石城郡町村長
					常陽銀行 支店	常陽銀行 支店	常陽銀行 支店	常陽銀行 支店	常陽銀行 支店		

四倉漁業組合で 優良漁船表彰式

漁獲高百六十二萬圓

四倉町漁業協同組合にては昭和十四年度優良漁船並に船主、船長の表彰式は去る八日(正月元日)の吉日を以て午前十一時より同町實踐女子青年學校新講義場に於て舉行せられたが、十四年度の四倉漁の總漁獲高は一躍百六十三萬圓に達したので永年の懸案としてゐた百萬圓漁獲が實現せられたものである。

昭和十四年度總漁獲高金百六十二萬七千三百四十五圓

▲春 職 揚繰網四統 金十一万二千三百八十一圓八十九錢

▲機船底曳網八隻 金四万九千五百九十九圓六十五錢

▲小型延縄船二十一隻 金二万七千六百四十四圓三十八錢

▲夏 職 揚繰網三統 金六萬八千二百五十四圓二錢

▲秋 職 揚繰網八統 金百十八萬一千四百三十四圓十五錢

▲機船底曳七隻 金九万六千三百一十六圓六錢

▲落網一統 二万三千四百七十七圓七十一錢

▲機船底曳二十隻 金五萬七千三百三十四圓九錢

▲船委託 金九千三百八十七圓九十二錢

▲春 職 (揚繰網) 一等三萬四千四百二十七錢

▲金比羅丸 船主 鈴木 賢二

▲同 船長 佐藤 朝吉

▲二等二萬八千九百九十三錢

▲普賢寺丸 船主 新妻 春次

▲同 船長 新妻 竹次郎

海上生活

四十六年

佐藤末吉氏表彰
四倉町新町漁夫佐藤末吉氏(五七)は昭和十四年舊十二月末日を以て船頭の職を辭したが、氏は海上生活をする事四十六年内船頭は昭和二年より十四年までつとめ現在の揚繰網の改良者として近海に知られてゐる。氏の退職により四倉漁業協同組合並に四倉船頭會では八日記念品と感謝状を贈つて勞を謝した。

▲秋 職 (海馬船) 一等一千八百四十七圓四五錢

▲盛漁丸 佐藤松之助

▲二等一千七百七十四圓三十九錢

▲豐漁丸 大河原仁郎

▲三等一千六百二十二圓三十四錢

▲十四年度精勤漁夫

▲橋本末吉氏外四十二名

▲元船長表彰

▲鈴木榮次郎、佐藤末吉

▲漁商人表彰者

▲佐藤治氏外五十四名

▲夏 職 (揚繰網) 一等五万二千八百二十五圓五錢

▲第一稻荷丸船主菅波末吉、船長鈴木徳太郎

▲秋 職 (揚繰網) 一等十九万九千五百九十二圓

▲四)は炭礦長屋で二十件に亘る

窃盗犯逮捕

宮城縣生那須江村生れ湯本町入山炭礦三村合宿木村守志(二四)は炭礦長屋で二十件に亘る窃盗を働らき檢擧された

御誂の既製品

電話三八六番

文部省習字科檢定委員
國定書方手本筆者
鈴木翠軒先生御選定
愛國筆
清樂筆
一本金拾錢より金百圓迄
特約店 魁文堂
電話三十三番

精神修養に
諸曲
仕舞
喜多流 白土會
「入會隨意」平市田町六九

債券・公債
兩替・金融
多田井質店
平市大工町 電五九一

女車掌
(三名至急募集)
未經驗者に限る
2. 委細面談
3. 優遇す
平市二丁目
三井
タクシー
電話六八五番

歸郷御挨拶

謹啓 時下嚴寒之候益御清適の段奉賀候陳者小生今事變頭初應召以來〇〇陸軍病院外科勤務中は公私共多大の御高配を賜り大過なきを得常に感謝仕居候今般不圖も召集解除之相成歸郷仕候就いては今後統後にあり一層勉勵仕心組に御座候間何卒倍舊の御鞭鞭を賜り度茲に謹みて御挨拶迄如斯御座候 敬具
昭和十五年一月卅日
平市南町
上田耕作

すき焼

「旨い」一言にして盡く
神戸牛
相始め申候
日本料理 山茶莊
電話五二〇番

御婚禮御着附

パールマントウエープ
御婚禮用髪を御利用下さい
和洋 結髪
オゾン美顔術
御染髪洗毛術
御爪術
平市驛前
水野化粧院
電話(六七八)營業所
(五二五)自宅

魚清なべ料理

自慢のなべ料理
鳥なべ・ちりなべ・よせなべ・ねぎなべ
かきなべ・はもなべ・あんこなべ・その他
出前 平市驛前
魚清食堂
速迅前出
出前持・炊事婦入用

和久井屋

御婚禮調度品を
取揃へました
是非
タンス・鏡臺
平市一丁目 電話四〇五番

東京堂

毎度有難う御座います
パン食普及の時代!
自慢の食パン 一斤十六錢
榮養パン バターロール
甘コッパン チョコレートロール
野菜サラダパン クリームロール
カレーパン・カツパン・黒パン
ベーカリー
平市橋植小路 電話一〇八番